

巻頭言

集約酪農の推進について

惣津 律士

美作集約酪農地域が酪農振興法による指定を受けてから1ヶ年の歳月が経過した。指定当時相当の打撃を受けていた北酪工場は再建計画の線に沿って、この1年間関係方面の援助と組合員の努力によって予期の実績を収めるに到ったが、29年度の負担が相当額に上っている関係上、自らの力によっての運営には未だある年数を必要とすることは申すまでもないが、諸般の状況は長期間に亘る再建計画を許さない実状にある。随って現在1ヶ年間の業績が詳細に検討されて、今後如何なる方途を更に講ずべきかについて関係機関において結論が出されており、急速なる再建の実現が期待されている。

ジャージー牛は当初とかくの批判を受けたが、指導者と飼育者の一丸となった努力によって極めて好調であることは、私は全国に誇ってよいと思っている。県の指導を正直に受入れて、正しい酪農を営みつつある実態は、一般ホルスタイン農家の指針になっていることは喜ばしい。而らば当地域のホルスタインの状況は如何。私は、関係者はもとより当該農家が、飼育形態は勿論心がまえに於て、かなり再考を促す必要の多々あることを卒直に認めるものである。指定を受けんと日夜奔走した当時の町村が農協当局の熱意はたしかに敬意を表するものがあつたが、其後に於ける活動において、当時の熱意を保持しているかどうか。私はこの点においても再検討を要するものを感じるのである。私は本地域が酪農によって振興する事が唯一の方途である限りにおいて、関係者は何ものよりも優先して、酪農の振興に真剣でなければならないのが当然である。

更に酪農経営を行う上において必要な環境条件の

整備が出来ているかどうか。漫然と乳牛を飼育して、より大きい利益を享受することは出来ない。指導力の強化もさることながら、酪農家が自己の経営を心から反省しなくては駄目だ。そこで私は近く当地域の牛乳生産費の調査を実施したいと思っている。

昨年から県下一般を通じて農村振興上に酪農が必須条件であるとの考えの下に酪農熱が再燃しており、備中集約酪農地域又は旭東集約酪農地域の造成を関係の農林事務所が中心となって計画されつつある。私はかような精神が溢れつつあることは大変よろこばしく思っているが、単に指定を受けるための政治の具に供せられては大変だ。どうしても酪農民が相供に共同の利益のために進まなくてはお話にならない。酪農資本家の自由になる集約酪農地域であってはならないし、ボスの座になってもいけない。先ず農民がその地域の酪農を左右する力を培養しなくてはならない。共同の力が村にも農家にも永遠の幸福をもたらすものであることを銘記すべきだ。